



社会福祉法人 京都光彩の会 光彩だより 令和2年 春号

卷頭言 ... 1
特集記事 ... 2 ~ 3
編集後記 ... 4

「光彩だより」2020年春号 特別企画

- ・地域で働き暮らすために京都市朱雀工房の取り組み
- ・第5回グリーンカフェを開催しました！
- ・これからグループホームに求められること

他 野地理事が精神保健福祉事業功労者として表彰！ 合唱団グラスが団員を募集！

対話を活発にして、
危機をチャンスに

卷頭言

脳は自然治癒力を持っているとされますが。それを邪魔するのが心です。心は脳が休みたいと言っているのに警告を無視します。その行き着く先が精神の病です。脳と対話し、タイミング良くお風呂に入り森林浴し多様な人と対話ができると病気になります。ただし心に圧力をかけている社会の問題を見過してはなりません。利用者は「働くのが下手な人ではなく、休むのが下手な人」と言われるやえんです。今回の報酬改定は精神障害のことがまるつきり分かつてない官僚の暴挙です。工賃運動、就労継続実績運動。とにかく「働かせよ」です。当法人も質の高い働きかけをしているにも拘わらず経営の苦境にあります。報酬は、利用者が休息タイミングを分かるようになること、それを周囲に伝えられることがあります。当法人も質の高い働きかけと気持ちのキヤツチボールの対話ができる関係があること、役割・趣味・生活基盤の「生活の質」が向上すること、への働きかけと連動すべきです。当然、職員にもそれが求められます。H.S.・カリバンは、職員の資質として、①相手の痛みが分かる、②シャイである、③裏表がない、④挫折体験・被差別体験をもつ、の4つを挙げました。ぜひ皆さんとの対話の力で、利用者に労働を強いるだけの歪んだ事業所の指向性を改革し、危機をチャンスに変えていきましょう。

社会福祉法人 京都光彩の会

理事長

加藤 博史

地域で働き 暮らすために

京都市朱雀工房の取り組み

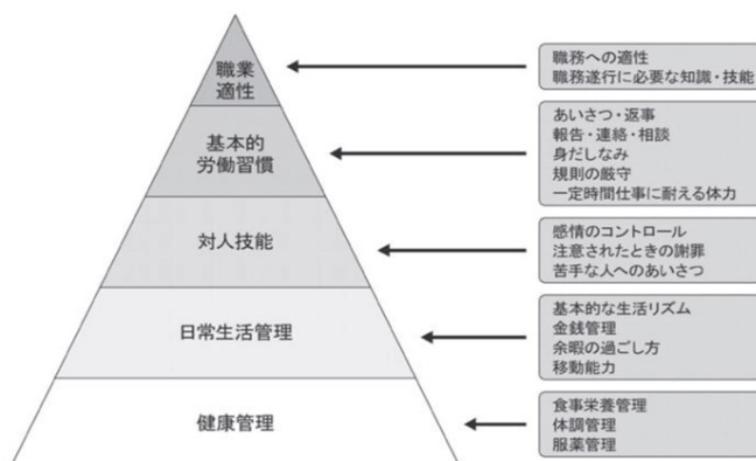
昨年もたくさんの方が京都市朱雀工房に見学に来て下さいました。年齢はもちろん、それまでの歩みや事情もおひとりおひとり異なりますが、「働きたい」という思いは共通です。そして、働いた経験のある方からは「仕事が合わなかつた」「自分に合う仕事を見つけたい」というお話を伺うことが多いのですが、もう少し丁寧に確かめていくと、「休日に生活リズムが乱れ、休み明けに遅刻・欠勤を重ねてしまつた」「受診や服薬を怠つた」という言葉を聞くことが少なくありません。

私たちの事業所では、利用者の方に、集中力や持続力が必要な多様な所内作業のほか、施設外の作業、さらには地域の様々なイベントにも参加頂く他、S S T (Social Functioning) や就労支援プログラムを実施し、ハローワーク、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターやジョブパーク、行政機関の方々など関係機関の皆さまのご支援を頂きながら、各種セミナーや企業見学や実習にも参加頂き、「職業

性ピラミッドといいます）を高めて頂くための取り組みを進めています。ただ、私たちは、安定して就労するためには、直接、就労に関係する支援だけではなく、健康管理や日常生活管理の重要性について、理解を深めて頂くことが非常に大切だと考え、そのための取り組みを積極的に進めています（ピラミッドの土台にある部分です）。

具体的には、毎日、終礼後に、その日の作業内容だけでなく、体調・服装・睡眠の状況を確かめるための日報を記入頂くほか、午後の作業に先立つて、一五分間のストロー筋トレを実施し、S F A (Social Functioning Ability) のプログラムを用いて理解を深めます。また、健康管理に力を入れています。さらに、外部講師を招いて、「やさしいヨガ」のプロ

グラムを実施し（月一回）、訪問看護師の方による個別健康相談にも取り組んでいます（月二回）。今後も、「地域でその人らしく働き暮らす」ために必要な準備を支援できるよう、プログラムの一層の充実に努め参ります。



(平成30年度 「就労支援ハンドブック」

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構刊から引用)

第5回 グリーンカフェを開催しました！

統合失調症を抱えながら、地域との繋がりがなく孤立しがちになつている方々にとって、大きな力になりました。「情報」や「仲間」と出会える場として継続的に開催している『統合失調症情報ステーショングリーンカフェ』。去る一月二二五日（土）に喫茶『ほつとはあと』西大路御池店にて開催しました。

当事者の方による進行のようになり、最初にピアサポート者がリカバリーの体験談を話され、その話に呼応するように参加者の方も自分の思いを話して下さるなど、実体験に基づくりアルな話やご自身の想いを全体で共有する時間となりました。また、カフェタイムでは、当事者の方のピアノ演奏を聴きながらゆつくり歌う場面もありました。



また次回の開催日時が決まりましたら、ホームページやポスターなどで広報しますので、ご興味のある方は是非ご連絡ください！

された方からのお話を伺いました。京都市内に限らず遠方から参加される方もいて、今回の相談を機に情報が増え、関係者の輪が広がります。まだ社員から孤立し情報を得られないと情報が届け、つながりをもつていただけるかが課題になつています。今後も試行錯誤を繰り返しながら、皆が生きやすい社会づくりに協力していくからと思ひます。

された方からのお話を伺いました。京都市内に限らず遠方から参加される方もいて、今回の相談を機に情報が増え、関係者の輪が広がります。まだ社員から孤立し情報を得られないと情報が届け、つながりをもつていただけるかが課題になつています。今後も試行錯誤を繰り返しながら、皆が生きやすい社会づくりに協力していくからと思ひます。

これからのグループホームに グループホーム賀陽・山ノ内・光

田上 嘉之

GH（以下）とは世話人や生活支援員から、必要な支援を受け、地域で暮らす場所であり、また一人一人が主体的な暮らしを実現できる場であること。そしてなにより自分の家であると言えます。京都光彩の会では、平成一年にGH賀陽が設立されました。平成一三年にGH山ノ内が、GH光が平成一七年に設立され、現在一七名の入居者が住んでいます。

これまで五〇人以上の方に住んでいただきましたが、最近は精神科病院に入院されていた方が退院先としてGHを選ばれる方が多い傾向にあります。また入居の問い合わせも多岐にわたり、精神科病院や保健福祉センターをはじめ、支援学校や児童相談所などからも相談があります。

GHでも入居者一人ひとりに寄り添つて支援を行つていくのですが、共

時代とともにGHを取り巻く環境は大きく変化しています。しかしどん

グルーピホーム（以下GH）とは世話人や生活支援員から、必要な支援を受け、地域で暮らす場所であり、また一人一人が主体的な暮らしを実現できる場であること。

一方でプライバシーの配慮が十分にできなかつたり、お互いの生活リズムの違いから、生活音を必要以上に意識したり、人間関係にわだかまりが生じたりする場合もあります。私たち職員はそのようなとき個別に話を聴いたり、ミーティングを開催するなどしてお互いの理解が引き出せるように関わっています。

なに環境が変わっても私たちは入居者の居住支援を支える担い手として取り組んでいかねばなりません。これからGHは専任の職員だけでなく、法人全体で支えていく必要があります。そしてこれまで以上に地域住民や他の支援機関など様々な人たちと手を携えていきます。なければならないと思いま



野地芳雄理事 表彰

多年にわたる精神保健

福祉事業の功績をたたえ

いつも法人を支えて下さつている野地芳雄理事が、公益社団法人日本精神保健連盟主催の第六七回精神保健福祉全国大会にて、精神保健福祉事業功労者として令和元年度の厚生労働大臣表彰を受賞されました。

野地理事には法人設立時より多くのお力添えをいたしました。野地理事には法人設立時より多くのお力添えをいたしました。今回のお力添えをいたしました。おめでとうございま

す！



合唱団グラス 団員募集

なごやかサロンには、"グラス"という合唱団があります。

合唱団に参加（団員として登録）されている方たちが、月1回程度（基本的に第3土曜日）11時～13時に集まり、講師の先生から指導受けながら、合唱の練習をしています。年に1、2回、うたごえと交流の広場等での発表もあります。

現在、合唱団員を募集しておりますので、ご興味、ご関心をお持ちの方がおられましたら、ぜひ一度見学にお越しください。

お問い合わせ先：075-813-0504 なごやかサロン（表口）

正直いって「障害者自立支援法（現：障害者総合支援法）」には、なんともいいうのない「居心地の悪さ」がある。（中略）そこには、国の責任を曖昧にしたまま「民活」に頼つてきる。それは、本来は精神医療体制が、精神障害を抱えた人たちの治療や社会参加を促進するためにあるべきなのに、いつの間にか、それが反転し「精神科病院を中心とした精神医療体制を維持するためには患者は存在し続ける」構図ができあがり、そのまま、同じ過ちを福祉においていることである。

今号の巻頭言を読み、「べてるの家」の向谷地生良さんが書かれたある一文を思い出した。



京都市中部障害者地域生活

支援センター 「なごやか」

中條 了

（『統合失調症を持つ人の援助論』 向谷地生良・著
金剛出版、二〇〇九年）

著書が出版されたのが一〇年前。昨今、関係者の方から「利用者が来ない」「安定した利用につながらず経営が苦しい」という声をよく耳にする。現行の制度が「成果主義」により報酬を得るシステムであるため、利用者の獲得と安定した利用が事業所の収入に直接結ぶ。

利用者大募集!!

就労 移行支援 就労 繼続支援B型

京都市朱雀工房、西山高原工作所、ワーカステーションかれん工房では上記の利用者様を募集しています。お気軽にご相談ください。

広報委員会 委員

中林 壮介（西山高原工作所）
中條 了（支援センター「なごやか」）
梅沢 信吾（ワーカステーションかれん工房）
高橋 恒明（京都市朱雀工房）
中村 美恵（支援センター「なごやか」）
田上 嘉之（グループホーム賀陽・山ノ内・光）

編集後記

皆様、こんにちは。今年の冬は暖かくて過ごしやすいです。個人的には嬉しいです。二〇〇七年にも暖冬だったようですがその年の夏は猛暑だったそうです：話は変わります。皆様ヤサカタクシーさんの四つ葉のクローバーの存在をご存知ですか？車両数が現在一三〇〇台あるそうでそのうち四台のみが四つ葉タクシーだそうです。乗車すれば記念のカードがもらえるそうで私の周りにも数名います。良いことがあります。割と有名なのでご存知の方も多いと思います。

（梅沢）では二葉タクシーは二台しかありません。これは上賀茂神社の第四回式年遷宮を記念して運航が開始されたそうです。二葉タクシーに乗車するとレシートが頂けて上賀茂神社で記念品と交換してくれるそうです。私も一度しか見ていない超レアなタクシーだと思います。期間限定で大丸さんのロゴが入ったものやバレンタインの時期にピンクのクローバーなどもありました。ヤサカタクシーさんを見ると無意識に見てします。皆様もヤサカタクシーさんを見た際には四つ葉タクシーがどうか確認してみてはいかがでしょうか。発見するとなんだかとても嬉しくなりますよ。（梅沢）

利用者と向き合い、寄り添い、共に考え、共に歩む そして誰もが人生の主役に



社会福祉法人 京都光彩の会

Social welfare corp KYOTO kosainokai.Inc

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地 京都市地域リハビリテーション推進センター1F

TEL : 075-813-0501 FAX : 075-813-0520
URL : <http://kyoto-kosainokai.jp>



社会福祉法人京都光彩の会 光彩だより
発行:京都光彩の会 広報委員会
印刷:西山高原工作所

